

大学生生活の充実度

コロナ禍前に戻らず

全国大学生生活協連実態調査
はこのほど、第57回学生生活実態調査（速報）を発表しました。コロナ禍1年目の2020年よりも大学生活が「充実している」とする学生が増えていますが、コロナ禍以前には戻っていない様子がうかがえます。

全国大学生協連実態調査

立大学の学部学生を対象に、インターネットで実施。回答者は30大學生の1万813人。大学生活が「充実している」「まあ充実している」と答えた学生の割合である「充実度」は現1年生が80・6%で、20年度の1年生（現2年生）の56・5%から蘇回復しました。しかしコロナ禍以前には戻っていない様子がうかがえます。

11月に、全国の国公私

は戻っていません。2年生以上の充実度は各学年とも2年連続で減少しており、現2年生の充実度は70・8%で、金学年で最低でした。

1週間当たりの登校日数は金学年の平均で2・8日となり、20年以前には戻っていません。

サークル入りづらい授業はオンライン

大学生活が“充実している”と“まあ充実している”の推移（%）

	18年	19年	20年	21年
1年	89.4	89.4	56.5	80.6
2年	87.2	88.0	77.1	70.8
3年	86.6	87.7	81.5	78.9
4年以上	88.6	90.1	86.4	84.5
総計	88.0	88.8	74.2	78.6

（大学生協連調査から）

アルバイトに関する調査では、就労率がどの学年でも回復しましたが、コロナ禍前には戻っていません。朝食の摂取率は61・1%で、コロナ禍前の18年68・0%、19年の67・6%よりも低下。朝食兼用が増加して昼食も減っています。

の2・0日からやや回復。しかし、19年の4・4日の64%にとどまっています。授業形態は、「すべてオンライン授業」と「対面授業よりもオンライン授業が多い」との回答が合計で47・3%あります。